



市立病院だより

ほほえみ



発行 越谷市立病院
 発行人 院長 津村 秀憲
 編集 院内情報誌編集委員会
 連絡先 〒343-8577
 越谷市東越谷10-47-1
 電話 048-965-2221 (代)
 F A X 048-965-3019
 発行日 平成24年8月 (No.13)

市立病院利用者の声 について

庶務課長 鈴木 春雄

市立病院では患者様のニーズを把握し、さらなる医療サービスの向上を目指して、現在意見箱を1階に2カ所、2階に1カ所、各病棟に1カ所ずつ合計12カ所設置しております。

過去3年間に寄せられた利用者の声は、平成21年度に175件、22年度に160件、23年度には203件の様々なご意見をいただいております。

平成23年度の203件のご意見を内容別に分類すると、苦情が40件、要望・提言が59件、感謝が40件、その他が64件となっております。苦情の内容は病気等の説明不足や言葉遣い・態度が悪いといった職員の対応に関する事、要望・提言は駐車場・トイレなど施設の改善や予約方法の改善による待ち時間の短縮など病院のシステムに関する事、感謝は親切丁寧な対応で

お世話になったことの礼状、その他は食事に関する事などとなっております。さて、なぜこのような意見が寄せられるのでしょうか。病院側の説明が足りなかったり、説明の内容が専門的かつ複雑で理解されなかったりということが考えられます。

また、患者様のこうあってほしいとの思いに対応してもらいたいとの気持ちから寄せられております。

この意見箱に寄せられた利用者の声は、内容によって該当するセクションの責任者はもとより、院長も読ませていただいております。そして、宛先を記載されている方には個人宛にお返事をお送りしております。また、代表的なご意見につきましては、1階の掲示板に掲示して皆さんにご覧いただけるようにしております。

近年の傾向といたしましては、苦情は減少傾向にあり要望や提言声が増えてきていることとは大変喜ばしいと感じ



近年の傾向といたしましては、苦情は減少傾向にあり要望や提言声が増えてきていることとは大変喜ばしいと感じ

病院の理念

私たちは地域の健康を守るため最良の医療を志向し、愛され信頼される医療を行なうにあたり、次のことを実践します。

— smile , safety , satisfaction —

- 私たちは病院の使命を自覚し、患者様のニーズに応える医療を提供します。
- 私たちは医療の向上に努め、生命の尊厳を重視し安全な医療を提供します。
- 私たちは患者様の視点に立ち、患者様が満足できる医療を提供します。

基本方針

- 1) 救急医療を充実させ、地域住民の求める医療に積極的に対応します。
- 2) 医療連携を積極的に推進し、地域に根ざした医療を展開します。
- 3) 安全な医療を旨とし、医療の質・患者サービスの向上を図ります。
- 4) 確かな技術、豊かな感性で高度な医療を展開します。
- 5) 職員は使命感と誇りを持ち、夢と感動ある医療を実践します。
- 6) 安定した経営基盤を確立し、限りある医療資源を有効に活用します。
- 7) 「患者の権利と責務」を遵守し、患者様との信頼関係に結ばれた医療の提供を目指します。



じています。
 利用者の声は、さらに良い病院にするための示唆に富んでおり、とても大切なものです。

喘息は慢性病？！

呼吸器科部長
家永 浩樹

喘息は有名な病気だと思います。周りにも喘息の方や子供の頃喘息だったという方がいらつしやると思います。呼吸器外来の受診者数も一番で、人口の3〜8%が喘息という統計もあります。

よくある病気ですが、理解のされ方が今一つのように思います。喘息の根本は気道（空気の通り道）の慢性炎症です。そう、慢性です。喘息は発作の時だけ病気で、あとは健康！とよく思われています。発作の時に「喘息になった」、発作が治まると「喘息が治った」と言われます。「子供の時は喘息だったけど、治った人を知っている」とも言われます。確かに小児喘息と診断されて、成人するまでに完治することもありません。しかし、成人喘息の多くは治癒することはありません。残念ながら…。

アレルギーが原因のことが多いですが、気道に炎症があり、それがひどくなると気道が狭窄し、咳、喘鳴（ヒューヒュー、ゼーゼー音がする）、呼吸困難が起こります。これが発作です。弱いときには症状は出ませんが、このため症状はあったりなかったりですが、ベースの炎症は症状がなくても、常に、常に起こっています。

一番やっかいなのが、炎症が比較的強い

状態で継続すると、気道の構成が変化して、治療をしても元に戻らなくなる、いつも気道狭窄の状態になることで、そう、いつも、四六時中、発作の状態です。この状態に進展しないように、発作が起こらないように、気道の炎症をいつも抑えることが重要です。具体的には副腎皮質ホルモン（ステロイド）の吸入です。「ステロイド！」と不安に思う方も多いですが、吸入なので、通常量では全身的な副作用はありません。むしろ発作の時に使うステロイドの方がびっくりするぐらい大量です。このため日常的に使って、発作を起こさない方がむしろ安全です。

残念ながら慢性の病気ではありますが、継続的な治療によって、健康人と変わらない生活を営めることが多い病気でもあります。喘息の本態を知って、日々の治療に臨んでください。



喘息の薬物療法

薬剤科 関根 正明

喘息の治療に用いられる薬には、継続して使用する長期管理薬と、起こってしまった発作を鎮める発作治療薬の2種類があります。長期管理薬を適切に使用し、発作が起こらないようにすることが治療の目標になります。



◎長期管理薬（定期的に使用する薬）

○炎症を抑える薬

・ステロイド薬（吸入）…フルタイド、パルミコート

喘息の薬物療法の中心となる薬です。副作用予防のため、吸入後は必ずうがいをしてください。

・抗アレルギー薬（内服）…オノン、シングレア

アレルギー反応を抑えて気道の炎症を鎮めます。

・抗IgE抗体（注射）…ゾレア

○気管支を拡張する薬

・長時間作用型 β_2 刺激薬（吸入・貼付）…セレベント、ホクナリンテープ
・テオフィリン製剤（内服）…テオドール、ユニフィルA

◎発作治療薬（発作が起きた時に使う薬）

・短時間作用型 β_2 刺激薬（吸入）…サルタノール、メプチン

吸入するとすぐに気道が拡張し、発作を鎮めます。我慢せずに早い時期に正しく吸入してください。

・ステロイド薬（内服・注射）…プレドニン、デカドロン

気道の炎症を抑える薬です。短期間の使用が原則です。

喘息について

＝放射線科から気管支喘息の患者様に注意していただきたいこと＝

放射線科 矢部 智

突然ですが、医師から『あなたは、喘息ですね！』と言われたことはありませんか？もし、ご自身もしくは、ご家族に『喘息』と診断された方は、放射線科で行うヨード造影剤の検査（造影CT検査等）に注意してください。

気管支喘息の患者様にヨード造影剤を使用した場合、重篤な副作用の発現率の上昇が報告されています。その比率は『造影剤の副作用歴』よりも高く、ヨード造影剤の原則禁忌として記載されている10項目の中で『気管支喘息』は最も造影剤に注意が必要な疾患と言われています。ですから、最近喘息発作を起こした方や喘息の治療中の患者様は、基本的にヨード造影剤を使用した検査はできません。

小児喘息既往歴のある患者様に對しても、最近の小児喘息ガイドラインの予後判断基準では、無治療、無症状の状態が5年以上持続している場合を“治癒”と判定するようにになりました。これを参考に基本的な造影可否の判断基準として取り入れられるようになりました。

そもそも検査において診断あるいは治療上、特に造影剤を必要とする場合には、造影剤を投与するリスクを上回る臨床上のメリットが期待される場合に限られます。また、これらに該当する場合であっても他の診断法（非造影MRIや超音波、核医学等）で同等の診断情報が得られることが期待できる場合には、他の診断方法を優先することは言うまでもありません。

よく患者様から“喘息気味”だと検査直前に自己申告されること
があります。咳が長く
続いていたり、咳で眠
れないなど慢性気管支
炎か気管支喘息なのか
判断がつかないことが
あります。基本的に
我々は安全側に回ること
になるのですが、本
来なら可能であった造
影検査の受けるチャン
スを失われることのない
ようにしなければなら
ません。主治医から造
影検査の話があった
時には、よく主治医と
相談をしてください。
また、“喘息気味”の
方は、確定診断をされ
ることをお薦めしま
す。



新採用医師の紹介

○6月1日付

(小児科)

山崎 晋

(小児科)
原 太一

○7月1日付

(呼吸器科)

藤本 雄一

(整形外科)
酒井 健介

(整形外科)

浅野 健一郎

(整形外科)
越智 宏徳

○8月1日付

(脳神経外科)

飯村 康司

編集後記

ほほえみの編集後記も2回目です。初回の後は『読みました』と声をかけて下さった患者様も何人かいらして、楽しみにされているので張り切って一文を投稿します。

毎日暑い日々ですがいかががお過ごしですか？風鈴・よしず・緑のカーテン・水打ち・氷柱、日本人は風流な暑さをしのぐ方法を作ってきました。熱中症には気をつけたいといけません、暑さに耐えるのではなく楽しんでしましましょう。

院内情報誌編纂委員長

尾羽澤 英子



“喘息気味”
という方は、
実は“喘息”
ではない方が
少なくありま
せん。